

# 燃え盛るお兄さん

いみなく過激!!  
ひたすら元気!!

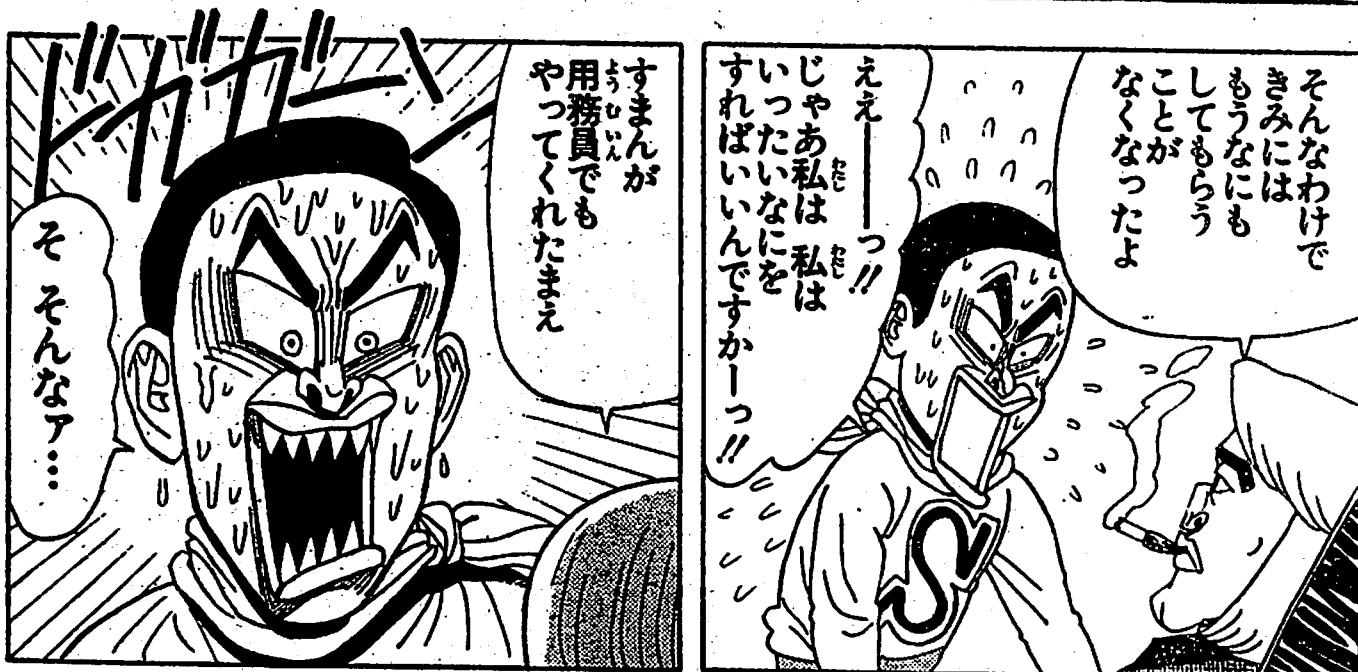
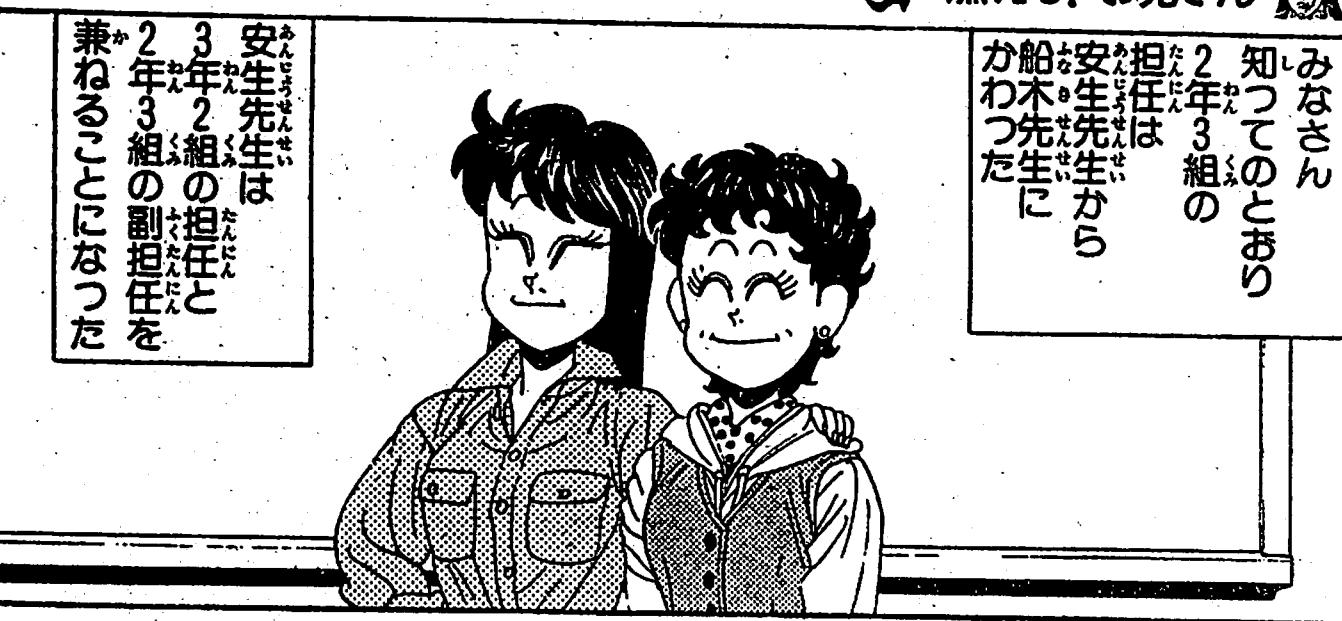
☆サイボーグ用務員さんの巻

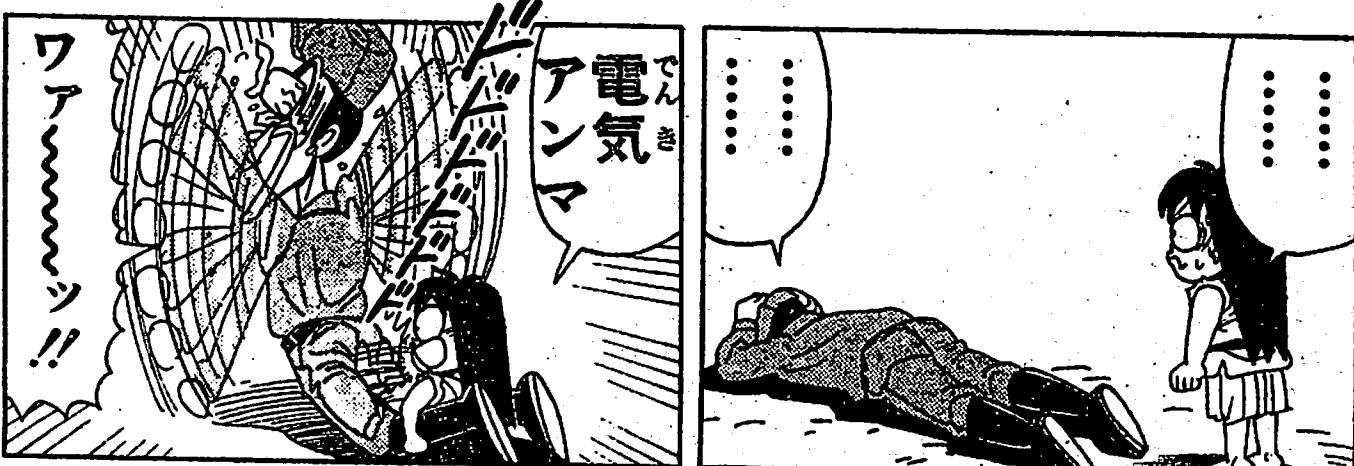
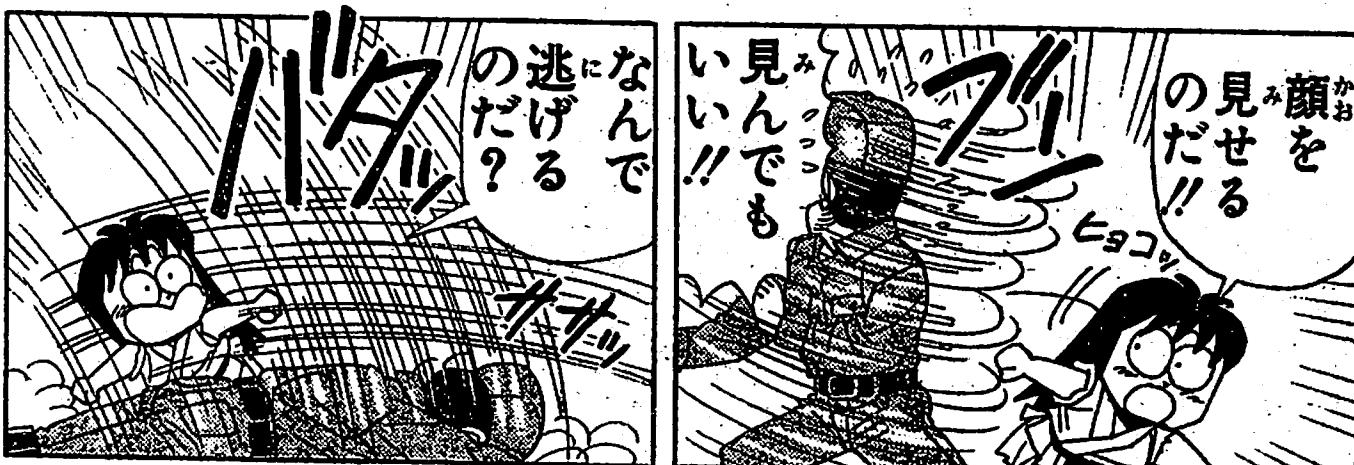
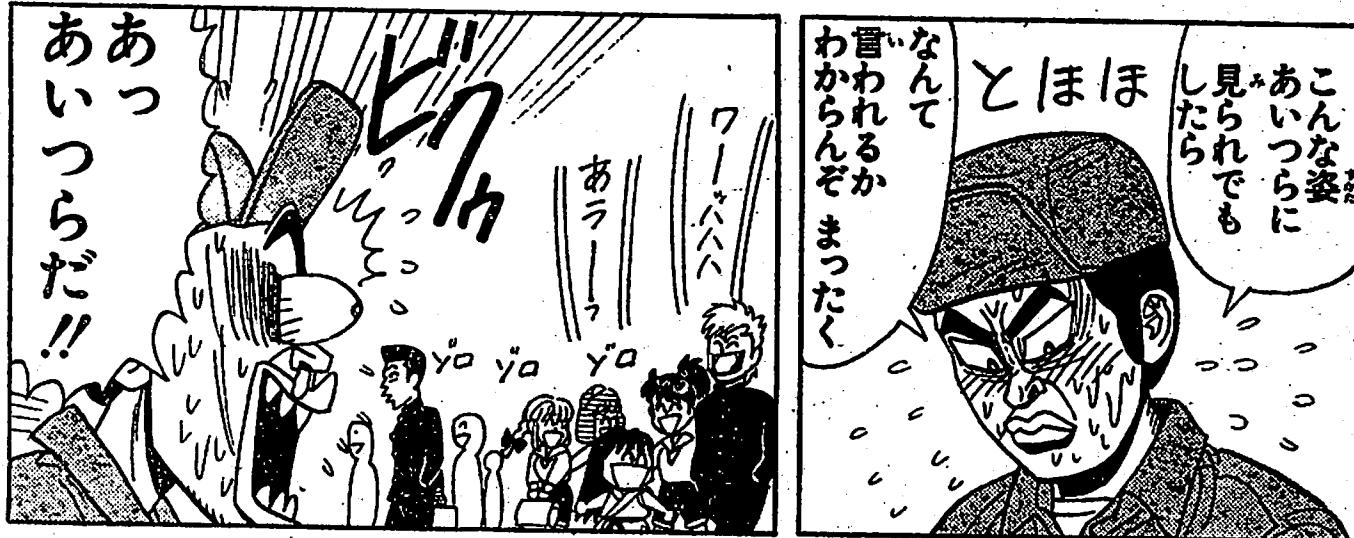
♥隠しても隠しきれない強烈ギヤグ!!



こ らく て い き よう  
みなさまに娛樂を提供しつづける

さ と う た だ し  
**佐藤 正**





★この作品はフィクションです。実在の人物・団体・事件などには、いっさい関係ありません。

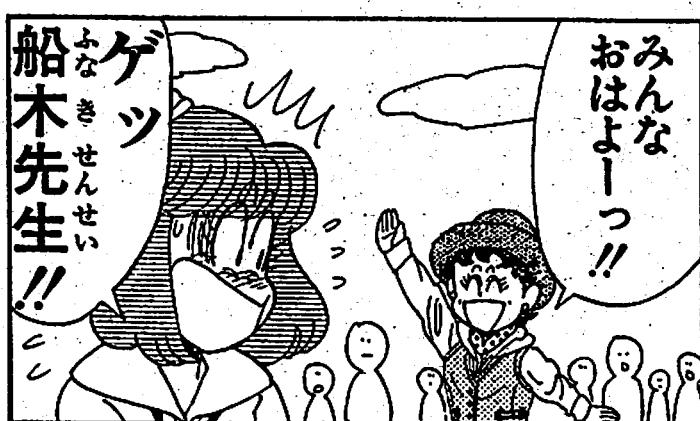
★身長180cm、体重80kgの肉体派!!

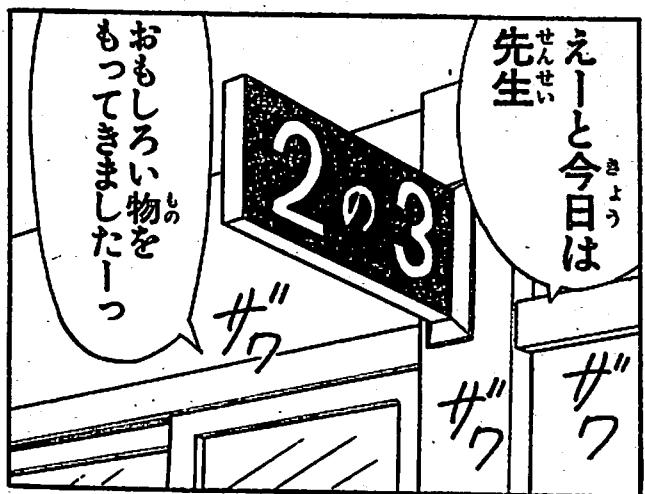
佐藤

正先生の作品が読めるのは、ジャングルだけ！

応援よろしく!!







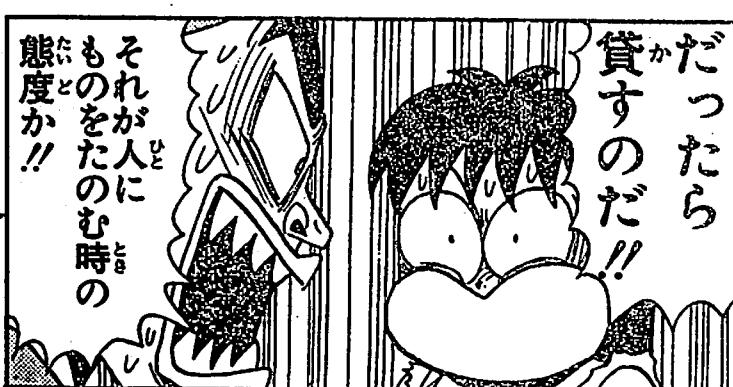
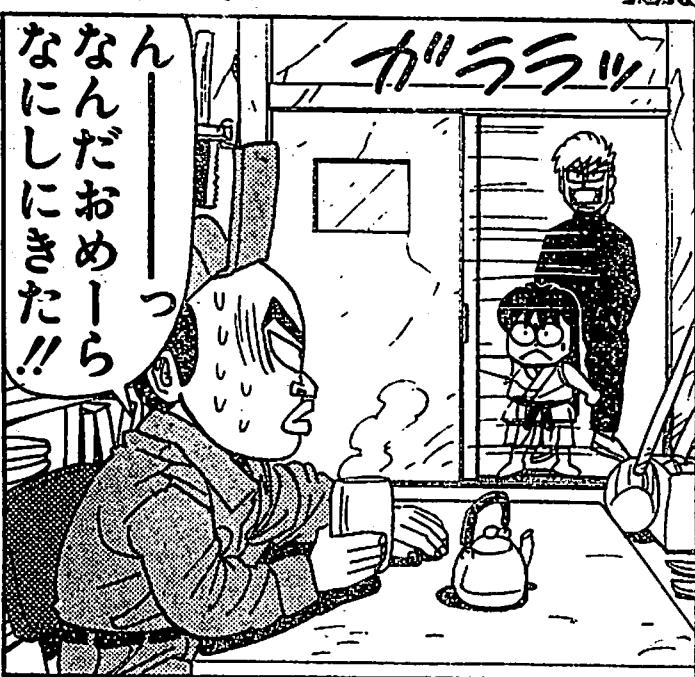
燃える！お兄さん

最新刊

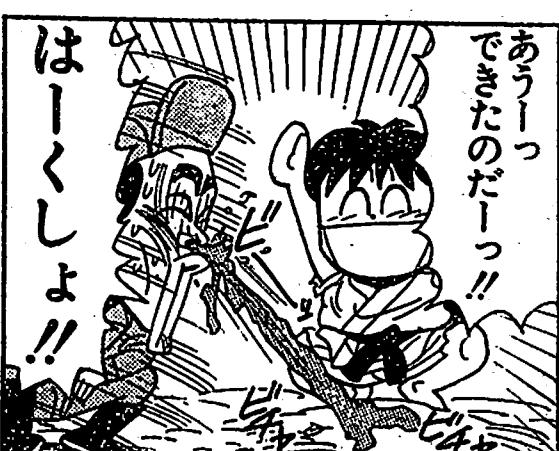
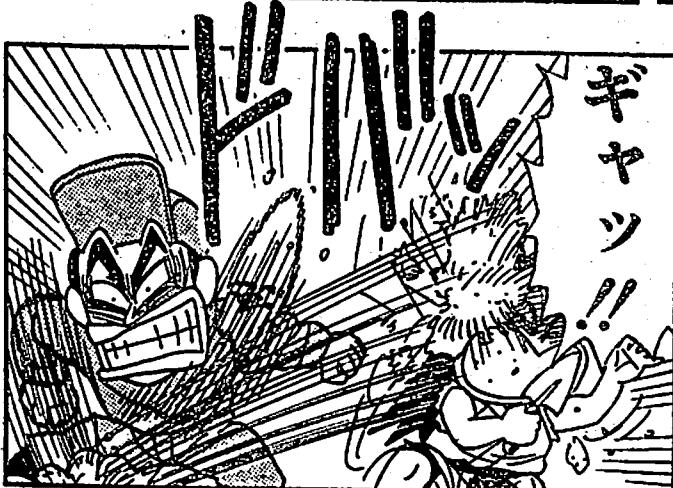
13 幻のヒーロー！爆発!! スーパージャガーの巻☆絶好調ギャグ作

人気投票発売中







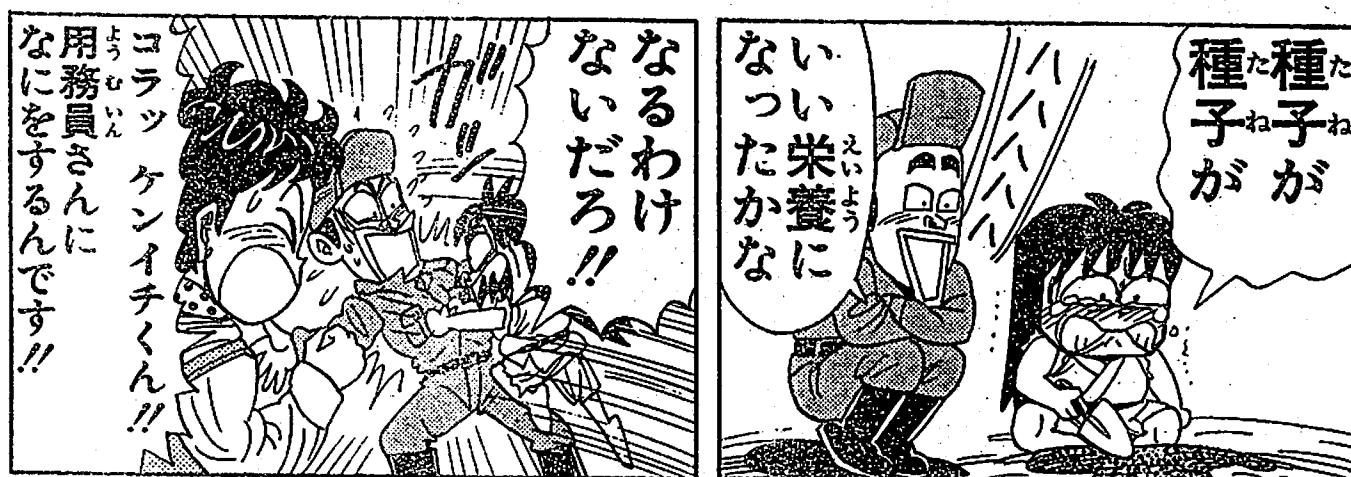
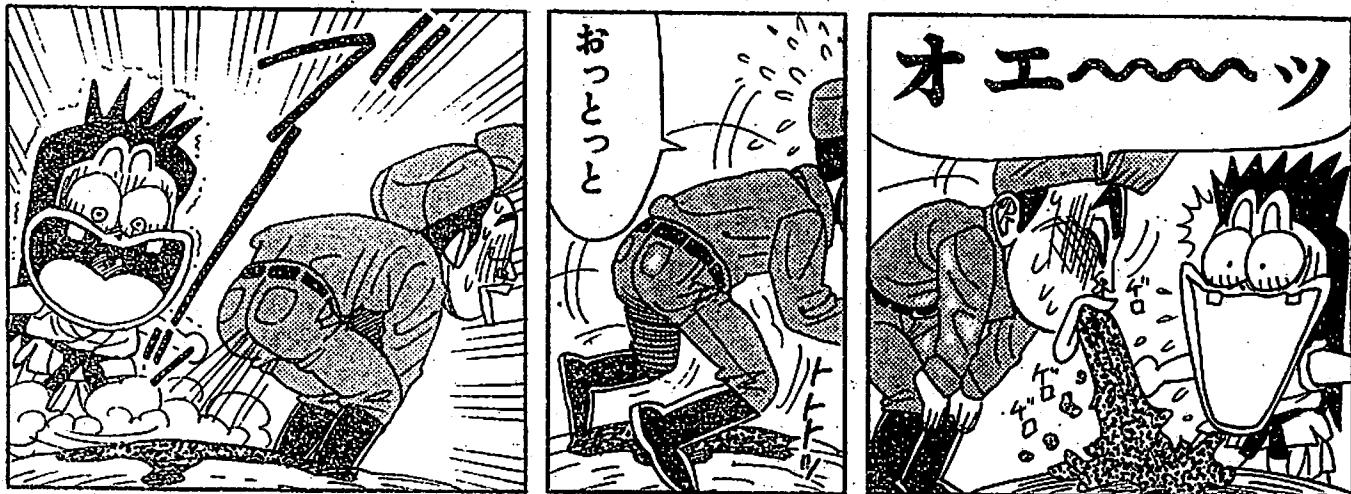


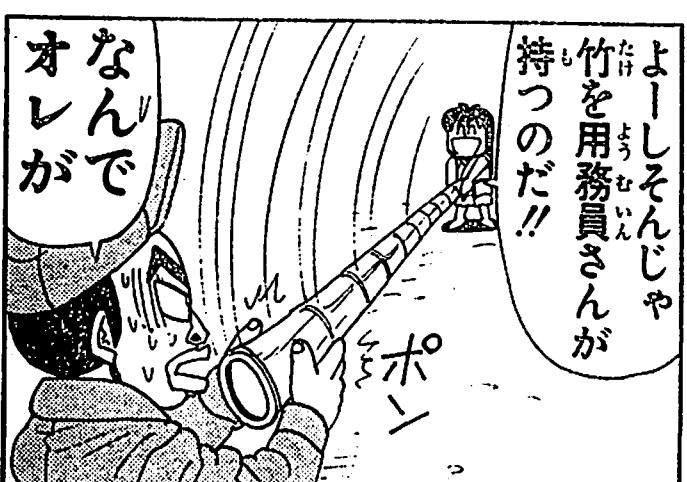
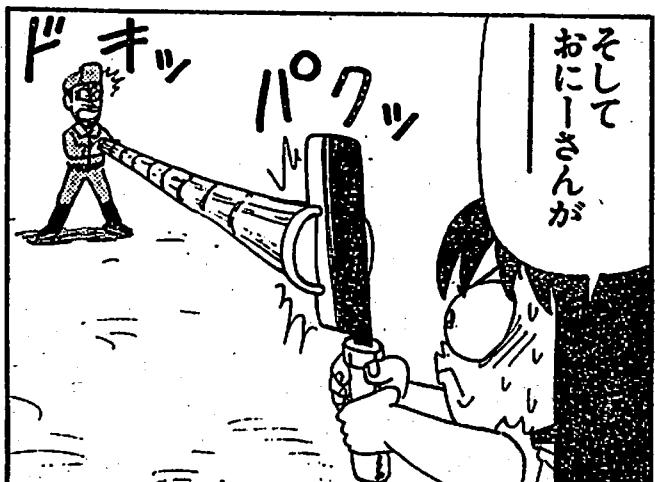
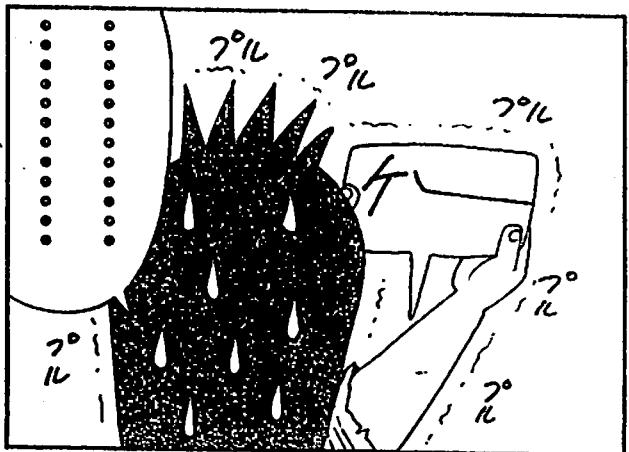
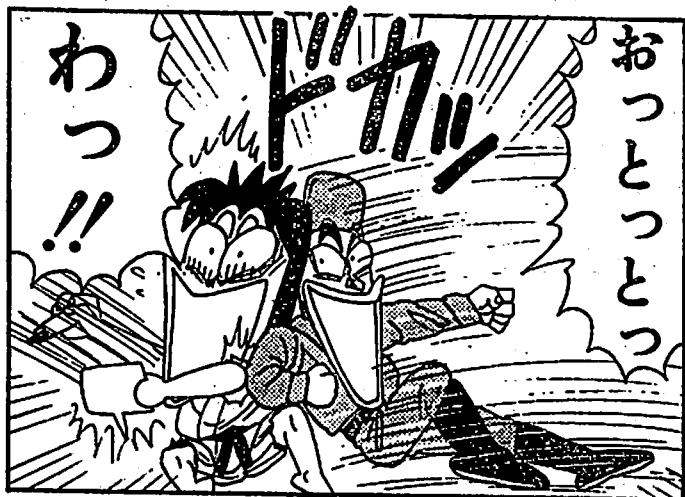
さつまと  
帰るのだ  
この力魔質!!

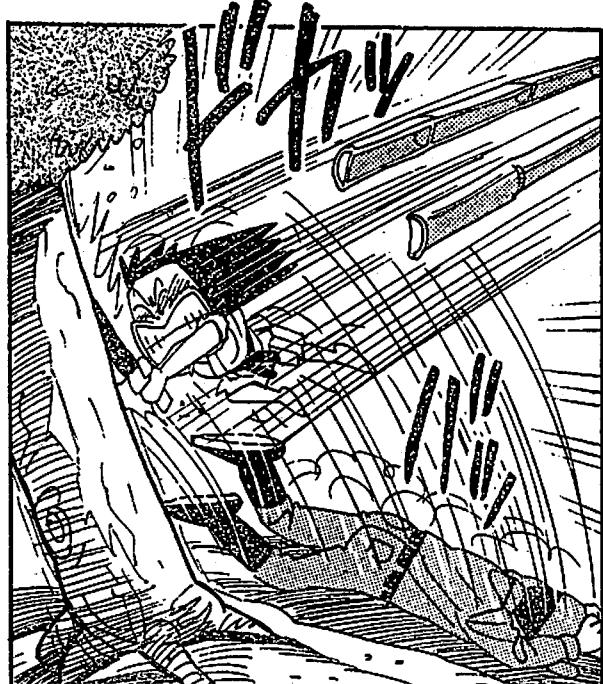
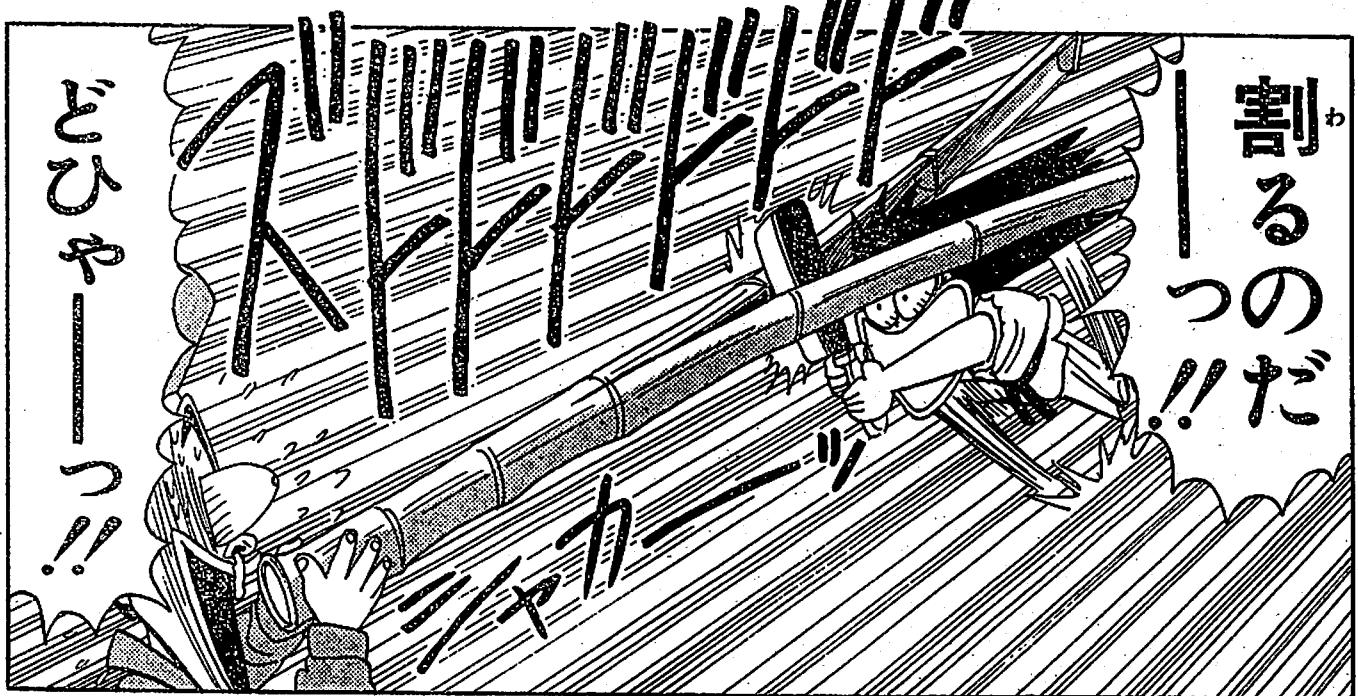


妖しい魅力で超興奮！萩原一至先生がおくる人気爆発作★8巻まで

完結作中

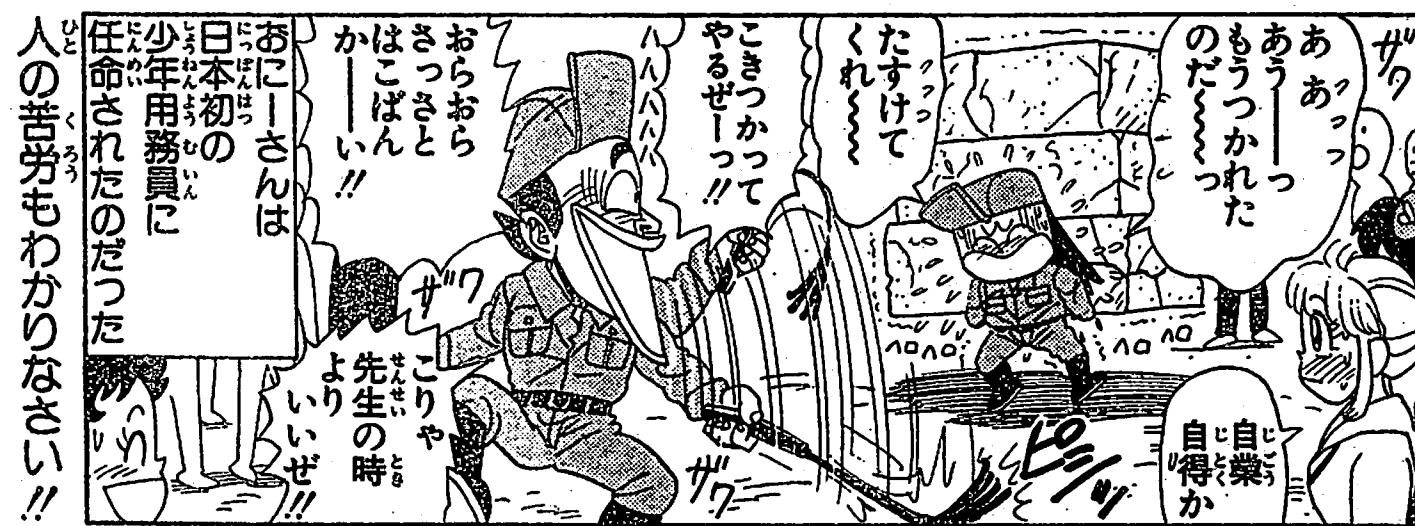


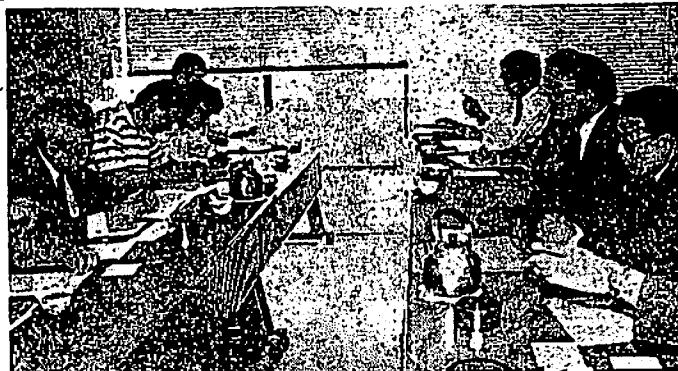




★ 格闘技大好き青年の佐藤 正先生に応援のお便りを!! あて先番号 101-50 東京都千代田区一ツ橋2ノ5ノ10 集英社週刊少年ジャンプ編集部。







## 「少年ジャンプ」で用務員差別。問われる、「人権」への姿勢。

青少年に圧倒的な人気を持ち、五百万もの販売部数を誇る雑誌で職業差別が行われた。

【大阪府本部発】週刊少年ジャンプ(10月112号)に掲載された「燃えるお兄さん」(佐藤正作)が、学校園用務員に対する蔑視と偏見に満ちており、その差別を助长・拡大するとして、大阪府本部・同学校園

用務員部会は10月17日、英社(東京都千代田区)に抗議申入れを行い、同母の店頭のみならず、家庭、飲食店にあるものをぐるめの回収の詐罪広告の掲載——などを求めた。

英社がひば中野登録場務部部長はじめ五人が、自治労から西園哲朗

大阪府本部環境副議長の七人が出席。中野部長は「田張から届いていたり、アゼンとした。深くお詫びした」と述べた。環境の責任者として後藤広吉議長は「すぐれた作者をやめてはいけない」として、抗議を受けて初めて金体會議を開いた。その結果、用務員の職業内容、任務を深く認識していないかった。この作品は職業差別だ——などと求めた。

英社は「抗議を受けて初めて気づいたことは……。チック機能がないといふのはおかしいの感覚を出した。また西園議長はまだ「小あたると判断し、深く反省していく」と語った。さる使じさん」扱いをされている所もあるとしたうえで、「これは差別そのものだ」と語る自治労側(左写)

しかしまだ「同時に差別をやめないとこか」として、英社に対し、中村事務局長は「抗議を受けて初めて気づいたことは……。チック機能がないといふのはおかしいの感覚を出した。また西園議長はまだ「小あたると判断し、深く反省していく」と語った。さる使じさん」扱いをされている所もあるとしたうえで、「これは差別そのものだ」と語る自治労側(左写)

筆頭投票をしたところの結果は、現実の差別が存在して、この作品によるそれが助長・拡大しているという意識が感じられた。このままでは「腹と同様では用務員を扱った作品が出来なくなる」のではないか、奥でもう一つの声では、「お詫び」読者の誤解の「お詫び」——といふようだ。同社が用意した自治労への謝罪の「お詫び」——読者の誤解の「お詫び」——といふようだ。又いつしても「絵本で見る「お詫び」(中村事務局長)として、社の考え方を文章で回答するよう求めた。



↑「お詫びの仕事の仕事!!」  
↓「お詫びの仕事の仕事!!」

## お 詫 び

小社発行「週刊少年ジャンプ」第45号（10月22日号、10月9日発売）に掲載した「燃える！お兄さん サイボーグ用務員さんの巻」は、学校現業職員（学校用務員）さんの仕事を教師の仕事より低く描き、当作品全体が、明らかに差別と偏見そのものでした。

これにより、学校現業職員（学校用務員）さんとそのご家族の方々に、多大なご迷惑をおかけしましたことを、心からお詫び致します。

これまで、皆様方が、教育現場における職務内容の明確化、職名の民主化、法的位置づけ等のため、長期にわたりご努力を続けられてきたことを、日教組、自治労等のご指摘もあり、恥ずかしながら新たに認識致しました。

これを踏まえて、①自治労大阪府本部現業評議会（用務員部会）の方がたをお招きして、全編集部の責任者を対象とした緊急研修会を行い、②「週刊少年ジャンプ」第51号（11月20日発売）誌上で、お詫びと読者への呼びかけ、回収のお知らせを掲載し、③11月21～23日の読売新聞全国版の「週刊プレイボーイ」の広告スペースをさいて、お詫びの社告を掲載させていただきました。

今後、人権・差別の意味を正しく認識し、出版活動を通じて、平等な明るい社会環境づくりに微力をつくすことを、改めて決意し、努力してまいる覚悟です。

追伸 なお、当該号の回収本が、当初の予想をはるかに上まわる数量に達したため、その対応に忙殺され、このご案内が遅れましたこと、重ねてお詫び致します。

株式会社 集英社  
週刊少年ジャンプ編集部

